後に始まったが、米国を中心とした多国籍軍によるイラク空爆が開始された日の夜、多くの友人が怒り、悲しみの涙を流していたのは目に焼き付いて忘れられない光景である。

友人が、戦争によって家族と連絡が取れなくなって悲嘆に暮れていたことや、長年の内戦で荒廃し、貧困に苦しむ国の出身の友人から、その惨状を聞かされたこともあった。

カレッジ全体の集合写真。200人の生徒の国籍は70以上

戦争を過去の話や「外国」の話としてしか知らなかった私にとっては、友人たちが、現に戦争によってその人生を翻弄されていることにショックを受け、個人の力ではあらがいようのない不条理に対して強い怒りをおぼえた。

私は、PCに留学する以前は、ろくに勉強もせず、社会的な意識も低く、部活動のラグビーばかり一生懸命やっていた、良くも悪くも豊かで平和な日本の高校生であった。しかし、PCでは、地球上の問題は、すべて、自分たちの問題であって、日々、あらゆる問題について考えさせられ、友人と議論し、自分がこの世界において何をして生きていきたいのかということを真剣に考えるようになった。

力を持つ側ではなく持たない側に立つ

私は、PCを卒業した後、東京大学農学部を卒業し、新聞記者として勤務した後、司法試験を受験し、二〇〇四年から東京都内の法律事務所に弁護士として勤務している。

私が、新聞記者、弁護士になろうと考えた理由のうち、共通しているのは、社会を、みんなが、より平和で幸せに暮らすことができるものにしたいという素朴な思い、そして、力を持つ側ではなく、力を持たない側に立ち、社会の不条理と対峙したいという思いである。このように考えるようになったのは、思い返せば、PCで、自分の友人たちが、戦争等によって人生を翻弄されているのに直面した体験が原点である。

もちろん、弁護士の案件はさまざまであり、私の思いが仕事に反映されることばかりではない（新聞記者も同様である）。しかし、弁護士の価値観、スタンスによって、事案の進め方や解決の仕方が変わることは少なくない。だから、私は、常に、力を持たない側に立つという自分の基本スタンスを忘れないよう心がけている。

「平和」について考える

最後に、UWCの理念の一つである「平和」について付言したい。

PC在学中に、平和、戦争について考える多くの機会があったが、「平和」がUWCの理念に掲げられている意味をより理解したのは、卒業した後のことである。

A国とB国があるとする。もし、両国が激しい対立関係になったとしても、A国の大統領の生涯の親友がB国に住んでいたら、大統領は、親友の住む町に爆弾を落とすことはできないだろう。

もし、多くの人がそのような友人を持つようになれば、きっと世界は平和になる。

ユナイテッド・ワールド・カレッジ（UWC）の詳しい情報については、
http://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/UWC/index.html参照

友人の存在こそ「平和」と「国際理解」

一九九〇―九二年UWCピアソン・カレッジ(カナダ)留学、九七年3月東京大学農学部卒業、同年4月毎日新聞社入社。二〇〇二年司法試験合格、〇四年より弁護士。

菰田法律事務所弁護士
菅原浩史(すがはら ひろふみ)

●ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会は、世界各国から派遣されてくる生徒たちとの教育体験の共有により、国際感覚豊かな人材を養成するという理念を掲げるUWCの日本委員会として、毎年一〇名前後の高校二年生を世界各地にあるUWC傘下の高校に派遣し、すでに四五三名の卒業生を輩出している。

地球のミニチュア

私は、一九九〇年から二年間、カナダにあるUWCのレスターB.ピアソン・カレッジ(以下、PC)に留学した。

UWCは、世界で約一〇の学校を運営している団体で、その理念は、教育を通じた「平和」と「国際理解」の推進である。学校によって制度は異なるが、世界中から集まった高校生が寮で共同生活をしながら学んでいる。

私が留学した当時、PCでは、二学年で合計約二〇〇人の生徒が在籍していたが、その国籍は七〇以上に達し、いわば「地球のミニチュア」であった。

異なる部分を認めながらの「国際理解」

世界各国から集まった生徒は、当然、皆が異なるバックグラウンドを有しており、考え方、習慣、宗教、出身国の政治や社会の状況もそれぞれであり、なかなかわかり合えないことも多かった。しかし、一七～一八歳という多感な時期に、ともに暮らし、学び、遊び、深夜まで語らうことで、異なる部分を認め合いながらも、互いに深く理解し、生涯の親友を何人も得ることができた。

そして、何冊も本を読むよりも、イスラム教徒の親友を持つことはイスラム教を理解することであり、ニュージーランド人の親友を持つことはニュージーランドという国について理解することだった。そのことこそ、UWCの掲げる「国際理解」なのだと思う。

もちろん楽しいことばかりではない。初めのうちは英語が全くわからず非常に苦労をしたし、高校生らしく友人関係や恋に悩んだり、辛いこともたくさんあった。

しかし、それらをすべてひっくるめて、本当に素晴らしい、「ユートピア」ともいうべき夢のような場所だった。

現実としての戦争

しかし、私の「ユートピア」は、想像上の理想郷ではない。「地球のミニチュア」である以上、世界中の事件が、現実に友人の誰かに大きな影響を与えることになる。

私がPCで学んだ二年間には、ソ連崩壊、湾岸戦争、旧ユーゴスラビア紛争といった大きなできごとがあった。また、ニュースとしての扱いは小さくても、戦争、内戦、紛争等は世界中で起こっていた。

湾岸戦争は、私がPCに入学した数カ月